

●ポスターセッション (P-試験・分析法-01~11)

P-H01「Real Time PCRを用いた湿地底泥中 anammox 微生物の検出」では、淡水河川、湖沼、干潮河川、干潟や内湾から採取した底泥試料中のアナモックス微生物(KBJAR, Scalindua グループ)をリアルタイム PCR で分析した結果が発表され、Scalindua は淡水域では検出されず塩分濃度が高い場を好む傾向があったことなどが報告された。

P-H02「水環境中のキノロン系抗菌剤の存在実態と処理性の評価」では、水環境や浄水工程におけるキノロン系抗菌剤の挙動に関する知見を得るため、河川水中の当該抗菌剤の濃度、ならびに塩素処理や粉末活性炭処理における除去特性が発表された。10 物質を対象とした調査により、河川水ではレボフロキサシンが検出されたこと、塩素処理においてはエノキサシンの反応性が低いことなどが報告された。

P-H03「AMP 法 (Loop-mediated Isothermal Amplification) を用いたクリプトスポリジウムおよびジアルジアの高感度迅速検出」では、クリプトスポリジウムおよびジアルジアをターゲットとした LAMP プライマーを用いた感度試験、ならびに特異性試験が行われ、クリプトスポリジウム、ジアルジア検出 LAMP は、各々 0.8 cysts/test までを検出できること、これらは細菌 10 種とは反応しなかったことが報告された。

P-H04「水環境中におけるネオニコチノイド系農薬アセタミプリドの分析方法の検討と存在実態」では、アセタミプリドを分析するため、固相抽出、LC/MS 分析を適用した結果が発表された。

P-H05「桂皮酸の藻類増殖阻害：試験期間中の構造変化と毒性」では、藻類増殖阻害試験中にシナピン酸、フェルラ酸、クマル酸は光異性化反応を起こすことが示されたが、増殖阻害作用に顕著な差はないとされた。特に、シナピン酸については、その 2 量化物などが発生することも報告された。

P-H07「分光光学的手法を用いた寒天培地上における微小コロニーの特性解析」では、染色法と分光光学的手法によって直径 30  $\mu$ m 程度のコロニーを検出できたことが報告された。また、本法は、微生物複合系における個々の微生物種の増殖速度の測定にも適用可能であると述べられた。

P-H08「固相抽出を用いる鉛イオンの吸光光度定量」では、分子認識ゲルを用いた濃縮とピリジルアゾレゾルシノール等を用いた吸光光度分析により、鉛の定量を試みた結果が報告された。

P-H09「土壌・底質中半揮発性物質の超臨界流体抽出法の基礎的研究」では、PAHs などをスパイクした底質に超臨界二酸化炭素抽出操作を施した結果、回収率は 44~70%となったこと、logPw 値から回収率の温度依存性のある程度予測できる可能性が見出されたことが報告された。

P-H10「ヤマビル駆除剤の分析法の検討と散布地の実態調査結果」では、土壌や土壌浸透水、河川水中の同駆除剤の分析方法が検討され、さらに同駆除剤が散布された後の残留性が評価された。その結果、ディートは土壌での残留や降雨による地下浸透が認められたが、シロネラ油の残留は認められなかったことなどが明らかにされた。

P-H11「霞ヶ浦湖水における組換え微生物等の微生物多様性への影響評価」では、湖水試料を用いて作成したマイクロコズムに遺伝子組み換え菌を入れ、マイクロコズム内微生物への影響を検討した結果が報告された。

(広島大学大学院・工学研究科 中井 智司)